

大問 番号	配点	単元	難易度	テーマ	目安 時間 (分)	特徴	2025年度 本試験 平均得点率
全体	100	－	標準	－	70	－	53.51%
第1問 〔1〕	10	数と式	標準	2次方程式 必要条件・十分条件	7	・文字係数の2次方程式を題材にした問題 ・文字定数を含む因数分解、2次方程式の解法、必要条件・十分条件についての知識・技能が問われた ・誘導がとても丁寧で、迷うところはあまりない	70.69%
第1問 〔2〕	20	図形と計量	標準	三角比の定義 正弦定理 余弦定理	17	・2円の交点と2円と共通外接線の接点でできる2つの三角形を考察する問題 ・(1)はそのうち一方の三角形について、丁寧な誘導に従い、三角比の定義や正弦定理を使って考察 ・(2)は(1)の考察の過程や結果をもとに他方の三角形を考察し、2つの三角形の図形量を比較させるという、共通テストの趣旨に合致した問題 ・(3)は具体的に図形量を求める問題で、(2)が解ききれた受験生にとっては取り組みやすいが、又ネだけ余弦定理を利用するので注意が必要	57.74%
第2問 〔1〕	15	二次関数	標準	日常事象の数式化 放物線	10	・噴水がえがく放物線を題材とした問題 ・多くは2次関数の式を決めるもので、放物線が通る点としてy座標が等しい2点が与えられていることに着目して2次関数の基本形 $y=a(x-p)^2+q$ を使えば手早く処理ができる ・(2)は(1)の仮定を少し変更した場合に噴水の水の出る位置をどのように変更すればよいかを考える問題で、共通テストの趣旨に合った設定となっている ・(2)ス～ソは自力で数式化して考察する必要があった	41.23%
第2問 〔2〕	15	データの分析	標準	散布図 外れ値 仮説検定の考え方	8	・都道府県別の日本人と外国人の宿泊者数に関するデータを題材にデータの分析の知識・技能を試す問題 ・各小問は独立した内容となっており、(1)散布図の読み取りと外れ値の個数について考察する問題 (2)2つの変数の和で定義された新たな変数の分散について、もとの2つの変数を使ってどのように表せるかを考察する問題 (3)新課程で新たに加わった「仮説検定の考え方」についての問題、となっている ・新課程からの出題部分は試作問題とほとんど同じ構成の問題であった	43.08%
第3問	20	図形の性質	標準	五面体 相似 円の性質 図形量	15	・空間内にある5面体を題材に、平面上の相似や円の性質を使った図形量の考察、空間内の平面や直線の位置関係についての理解度を試す問題 ・共通テストの「図形の性質」で空間図形が出題されたのは初めてだったが、(2)セを除いては誘導がとても丁寧で考えやすい ・(2)セは空間内の直線や平面のなす角に関する正しい理解に加え、辺の長さの情報から直角である角を見抜く必要もあり、苦戦したかもしれない	52.71%
第4問	20	場合の数と確率	標準	くじ引きの参加料の妥当性 期待値	13	・くじ引きを題材にした確率の問題で、主催者の立場でくじ引きの参加料をどのような額にすれば妥当かを考える問題 ・新課程で加わった期待値の知識を日常生活に活用する内容で、共通テストの趣旨に合致した問題といえる ・誘導がとても丁寧で計算量も少ないので取り組みやすかったであろう ・くじ引きの参加料について、次々と別の支払方法を考えるので、文章の読み取りに気をつけたい	58.54%